

# 教 師 ノ ー ト

日付	2013年 9月22日
単元	使徒の働き・2
テーマ	伝道する
タイトル	語り続けよ～第2回伝道旅行
テキスト	使徒 18:1-11
参照箇所	Ⅱ テモテ 4:2
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 使徒 18:9	
AG 日曜学校教案参照箇所 (リンクできます) <a href="#">幼1巻2題13課</a> 、 <a href="#">小上3巻1題9課</a>	
<b>メモ(情報・例話など)</b> ☆主がパウロを用いられたように、私たち(子どもたち)を用いられます！ 『主は僕らを用いてくださる』(プレイズワールド3「チャレンジ」)は、子どもたちを励ます賛美で、今回のメッセージにあっているのでみんなで賛美するのもよいでしょう。  作詞・作曲／Peter and Hanneke Jacobs 訳詞／スタッラ一理江子 1. 子どもの僕も主の仕事ができる イエスさまを誰かに伝えることが 子どもの私も主の仕事ができる 人々を愛することが * 主は僕らを用いて下さる 主の愛を今日も伝えよう 主は僕らを用いて下さる 主の愛を今日も広げよう 2. 話してあげよう僕らの友だちに イエスさまがどれほど愛してるかを 祈り続けよう家族が主を信じ 救われる日がくるように	
<b>□導入</b> イエス様のことを伝えるのに、「恥ずかしいなあ」と思ったり、勇気がでなかつたりするかもしれません。恐れていない人に、「恐れるな」とは言いませんね。恐れているから「恐れるな」と言われます。実はねえ、あの伝道者パウロが「恐れるな！」って神様から言われたのです。パウロもイエス様のことを伝えるのに、恐れる時があったようですね。	
<b>□ポイント1 パウロは、コリントで宣教の助け手を与えられました(1-5)</b> パウロは第2回目の伝道旅行でギリシアのコリントという街にやってきました。するとイタリアからやってきたアクラとプリスキラというクリスチャンの夫婦がいました。この夫婦はパウロと同じ天幕作りをしていたので、パウロは彼らの家に住んで一緒に仕事をしました。神さまはパウロのために住む家も助け手も備えて下さっていました。平日は仕事をし、安息日にはイエス様のことを宣べ伝えていました。すると今度は、来るように言っていたシラスとテモテ(17:15)がコリントの街にやってきました。そこでパウロは、イエスさまのことを宣べ伝えることに専念することができるようになり、イエスさまがキリストであることを多くの人々にはっきりと宣言していきました。	
☆イエスさまのことを宣べ伝える時、神さまは助け手を与えられます。牧師や宣教師が皆さんの街で宣教が開始された時、アクラとプリスキラのような夫婦、シラスやテモテのような助け手がきっと与えられていたと思います。教会の歴史を牧師などに尋ねて、子どもたちに最初の様子をお話すると良いでしょう。	

**□ポイント2 パウロの宣教に反対する人もいましたが、多くのコリント人がイエスさまを信じた(6-8)**

パウロはユダヤ人にイエスさまがキリストであることを宣言しましたが、ユダヤ人はパウロに反抗して暴言をはきました。そこでパウロは異邦人に伝道を始めました。するとクリスポという人とその家族のみんながイエスさまを信じた！そしてたくさんのコリント人がイエスさまのことを信じ、次々と洗礼を受けたのです。

☆イエスさまのことを語ると、反対する人、悪く言う人が出てくるかもしれません。それはイエスさまの時代からそうでした。だから私たちは反対する人がいても驚く必要はありません。反対する人がいても、イエスさまのことを信じる人々も神さまは備えて下さっています！

**□ポイント3 パウロは、主に励まされながら神のことばを語り続けました(9-11)**

ある夜、主は幻の中でパウロを励ましたのです。偉大な伝道者パウロも、多くの人々の反対、暴言などに恐れを感じていたのでしょう。主はパウロに「恐れなくて語り続けなさい。この町にはわたしの民がたくさんいる」と言われました。主に励まされたパウロは、1年半腰を据えて神のことばを語り続けました。やがてパウロは「コリント人への手紙」を記しているように、パウロが主に励まされて神のことばを語り続けたので、汚れた街と言われたコリントの街にキリストの教会が誕生していくこととなります。

☞パウロは伝道旅行の際に多くの苦しみの中を通りました(Ⅱ コリント11:21-33)。「眠られぬ夜」を過ごしたこともあったようです。コリントにおいてもそういう夜を過ごしている時に、幻の中で主の励ましが与えられたのかもしれません。

☆ある牧師は「聖書の中に『恐れるな』という言葉が365回あります。つまり私たちは毎日毎日、主の励ましの言葉を聞きながら生きていく必要があるのです」と言っていました。批判や否定の言葉が耳に入ってくるかもしれませんが、私たちが心に留めておく言葉は主の励ましの言葉なのでしょう。

☆神さまは、コリントの人たちがまだイエスさまのことを信じていないのに、「わたしの民」と呼んでいます。私たちの住んでいる街にも、神の民が大勢います。クラスの中で1人だけのクリスチャンという子どももいるでしょう。主がパウロを励ましたように、主と同じ心で子どもたちを励ましてあげましょう。

**□結論 恐れなくて、主に励まされてイエス様のことを語り続けましょう。** 暗唱聖句を読み上げます

**□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)**

恐れなくて語り続けるために、

- 1)パウロにも助け手が与えられたように、お互いに名前をあげて、家族や友達がイエス様を信じるように一緒に教会に誘ったり祈りましょう。
- 2)もしかするとイエス様のことを「信じない」って反対する人がいるかもしれませんが、信じる人も必ずいることを私たちがまず信じましょう。
- 3)今住んでいる町や市には、神様の民が大勢います。どのように伝道したら良いかみんな考えてみよう。